

新たな取り組み紹介

OCHIS・両輪会

SAS治療支援を強調

ヘルスケアネットワーク(II OCHIS、武田裕理事長)は12日、ドラッグ企業などのパイの安全と健康を推進する協議会「両輪会」をオンラインで開催した。トラック企業などのパイの安全と健康を推進する協議会「両輪会」をオンラインで開催した。トラック企業などのパイの安全と健康を推進する協議会「両輪会」をオンラインで開催した。

ヘルスケアナビシステム[®]の新たな取り組みや、睡眠時無呼吸症候群(SAS)の治療など、パイを支援する最新の知見を共有した。27回目のテーマは「ドライパーへのアプローチ、健康と安全の両輪を冒頭、両輪会代表

の作本貞子OCHIS副理事長は「業態や規模に関係なく各社に共通する課題を検討していくと、ドライパーへの意識改革や教育が欠かせない」と話した。

続けて、安島なつき保健師が登壇し、運輸ヘルスケアナビシステムでユーザーの意見を受けて開始した4つの新しい取り組みを紹介。一例が、健診と運輸ヘルスケアナビシステムの連携。一部の健診機関の協力を受け、ユーザーの事務負担を軽減しよの使いやすいシステムを実現する。

黒田悦子保健師は、SASを継続的に治療するドライパーを企業がバックアップすることが重要とし、職場や業務での教育や理解・配慮の必要性を強調した。事例報告では、合通口の狩集誠総務課長から定期健診で異常が認められた社員に医療機関への受診を促すための工夫や難しさが語られた。さらに、梅田運輸倉庫の岸本恵知安全管理課長が安全教育を紹介した。

(遠藤 俊)